

横井小楠 —その業績と生涯—

横井小楠と坂本龍馬*との出会いの場所は、江戸と福井、そして熊本(四時軒で3回)が挙げられます。龍馬は、四時軒での3回目の会談で、小楠と激論をたたかわせて決別し、最後の出会いになってしまいましたが、その後、「当時、天下の人物9名」(兄宛の手紙)の中に、横井小楠の名前も挙げています。

坂本龍馬肖像写真
(写真提供:高知県立坂本龍馬記念館)



18 坂本龍馬と四時軒

小楠と龍馬の初めての出会いについては、『春嶽手記』に「文久2年(1862)の7月(閏8月の説あり)、坂本龍馬と岡本健三郎(土佐藩士)が越前江戸藩邸に来て、自分(春嶽)と面会し、『海舟と小楠は常々暴論を吐き政治の妨害になっていると聞きます。2人に会ってみたいので、海舟と小楠を紹介してください』とのことであった。そこで紹介状を書いて与えた。両人はその紹介状を持って海舟や小楠に面会に行った。」(要約)との記事があります。当時、小楠は越前藩邸に居たので、そこで龍馬と会ったようです。なお、海舟を訪れた龍馬は、海舟から世界情勢を詳しく説き聞かされて感動し、海舟の門人になっています。

文久3年5月、龍馬は海舟の命令で福井を訪れています。小楠の指導による殖産貿易で藩財政が豊かになった越前藩に海軍操練所の資金を援助してもらうためです。龍馬は福井に着くや、まず小楠に会って来意を告げています。そして小楠を通して春嶽から5千両の資金援助を受けることができました。また、この時、小楠と龍馬は三岡八郎(由利公正)とも会っています。『由利公正伝』によると、「或る夜、外出先から帰ると、小楠が坂本と一緒に小舟に棹さしてやって来た。そこで3人で囲炉裏を囲み飲み始めたが、坂本が愉快極まって『君が為 捨つる命は惜しまねど 心にかゝる国の行く末』という歌を謡った。」とあります。

さて、龍馬が初めて四時軒を訪れたのは元治元年(1864)2月で、次いで4月です。海舟が幕命で長崎へ行った途次で、同道した龍馬を

四時軒に遣わしています*。また、龍馬個人としては、薩長同盟を画策していた慶応元年(1865)5月、薩摩からの帰りに四時軒に寄っています。その時の様子を徳富蘆花は父一敬から聞いた話として自著『青山白雲』に次のように記しています。

「坂本(龍馬)は薩摩からの帰りがけと言ったが、今思えば薩長連合(同盟)に骨折る最中であつたので、白の琉球紵の単衣に鏢細の大小を差しており、衣服は大久保(利通)*の呉れた物と言っていた。酒が出て人物評が始まった。小楠が『おれはどうだ』と聞くと、坂本は『先生は、2階に上がって酒を飲みながら、西郷*や大久保共がする芝居を見物しててください。大久保共が行き詰った時はちよいと指図をしてください』。小楠は笑って頷いた。」

ところが、龍馬側の資料によりますと、幕府による第二次長州征伐のことも話題になり、それに肥後藩が参戦することの是非について議論しています。小楠があくまで長州の非を断じ、征伐の正当性を主張したことに龍馬が激しく批判し、遂には口論になったということです。その後2人は会うことがありませんでした。

*坂本龍馬(1835~1867)…土佐藩(高知)の町人郷土。脱藩して勝海舟の弟子になるが、のち海援隊長になる。薩長同盟締結に尽力し、將軍徳川慶喜による大政奉還を実現させた。国家体制についての意見書『船中八策』は有名。慶応3年、京都近江屋で暗殺された。

*龍馬の四時軒訪問(1864年2月・4月)…『市政だより』9月号参照。

*大久保利通(1830~1878)…薩摩藩士。西郷隆盛らと討幕運動を推進。明治維新後、政府の実権を握る。のち不平等土族に暗殺される。

*西郷隆盛(1827~1877)…薩摩藩士。第二次長州征伐以後、討幕派となり薩長同盟、主政復古、戊辰戦争などを指導する。勝海舟と会談して江戸城無血開城も実現。明治維新後、政府の首脳となるが、明治10年の西南戦争に敗れて自刃した。